

平成29年度 相模原総合高等学校 不祥事ゼロプログラム実施状況

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、真摯な態度で指導に当たる。	体罰や不適切な指導に関する具体例を提示し、日ごろから生徒の人権に配慮した指導を心がけるよう指導を徹底した。 また、各年次の教育相談担当や養護教諭を中心に、生徒が相談できる態勢づくりに努めた。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報を適切に取扱い、情報の流出を未然に防止する。	教育委員会の事故不祥事防止啓発資料やチェックシートを職員に配付して、意識啓発を図り、個人情報の漏洩を防止した。特に、SNS関連は繰り返し指導した。教務手帳はすべて専用のロッカーにしまうなど個人情報保護に努めた。試験答案などは極力校外に持ち出しことは避けさせ、個人情報を持ち出す際には手続きを徹底した。また、USBメモリの管理を徹底するなど情報監査の指導事項を徹底した。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止	法規範を遵守し、交通事故の発生を未然に防止する。	交通事故や違反事例の解説等を実施し、交通事故防止の意識を高めた。 交通事故防止の研修会に相模原北警察署員を招聘し、ドライブレコーダーの映像などを使って事例研究を行い、交通事故防止の意識を高めることができた。
業務執行体制の検証	業務執行にあたり、事故を未然に防ぐため情報を共有し、相互チェックを行う	業務内容の情報を相互に共有し、グループ員同士協力しながら業務を遂行した。 個人情報に関わる業務はマニュアルに沿った運用を行うとともに、追加的なマニュアルも配付して点検・確認を徹底し、事故不祥事の防止に努めた。また、管理職への「報告・連絡・相談」を徹底したことにより事故を未然に防ぐことができた事例もあった。
わいせつ・セクハラ行為の発生を未然に防止	人権意識を高めわいせつ・セクハラ行為の発生を未然に防止する。	スクールセクハラ、パワハラ防止のセルフチェックを実施し、意識啓発を図った。 関連する新聞記事や啓発資料を活用し、人権に配慮した対応の徹底を図った。 職員対象の人権研修会を実施し、人権意識を高めた。
不適正経理処理の再発防止、私費会計の適正執行	公費・私費・現金管理に関するトラブルや事故不祥事を未然に防止する。	「私費会計基準」や「私費会計事務処理の手引」への理解を深め、適正な執行管理と予算編成に努めた。 会計監査などの機会を通じて執行状況を確認し、指摘事項を整理し、改善に努めた。 県の包括外部監査の資料を会計担当者全員に回覧し、他校の事例を参考に改善を図った。

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
入学者選抜の事故防止	入学者選抜業務を適切に行う。	マニュアルや業務分担を徹底して見直し、ハードとソフトの両面の改善を図り、適正に業務を遂行した。 ヒヤリハットを情報共有し、事故を未然に防ぐことができた。
公務外非行	常に公務員の自覚をもち、県民の信頼を損なう行為を防止する。	新聞記事などの具体的な事例を通して、日常的に意識啓発に努めた。自己点検等を実施して、個々の職員が法令遵守（コンプライアンス）の意識を高めた。 また、管理職がすべての常勤職員と事故防止のための個別面談を実施して、教育公務員としての意識啓発をさらに徹底した。
外部への適切な対応	外部との対応については適切に行う。	来校者などへの挨拶、迅速な電話対応と所属名、氏名を名乗るなど丁寧な対応を行うように努めた。 特に、若手職員の電話対応には個別に指導を行った。

○ 平成29年度不祥事ゼロプログラムの達成状況及び平成30年度に取り組むべき課題

- ・「事故・不祥事ゼロ」を目指して取組みを行ってきたが、残念ながら年度途中で職員による交通事故が1件発生した。日ごろの事故・不祥事防止の啓発研修を継続的に行い、日常的な小さいことを積み上げて目標を達成することの大切さを感じている。
- ・定期試験・成績処理・私費会計処理・入学者選抜業務については、特に職員が一丸となって事故防止に取組み、無事終えることができたことは、当然のこととは言え、何よりであった。
- ・さまざまな場面を利用して、個人に対して面接による不祥事防止の研修を行った。特に、12月末から1月末にかけてすべての職員に対してSNSや交通事故防止のための面接を実施した。限られた時間ではあったが、職員個々の状況に応じて適切な指導助言をすることができた。
- ・次年度における取組予定  
今年度も実施してきたが、グループリーダーである総括教諭を中心に、各グループ内での事故防止につとめるとともに、少人数によるグループ討議を進める。また、面接指導も強化し、職員の「心に響く」内容の事故防止研修の取組をさらに継続したい。